

DX 推進ビジョン

代表取締役社長 森原 達夫

2026年6月1日 策定



SOLUTION LABO
JAPAN

気づく、見つける、ともに創る。

DX推進ビジョン

「SLJ全社員・全部門の業務プロセスにAI等のデジタル技術を実装し、ビジネスモデルそのものを変革する。
これにより経営課題を解決し、“ありたいSLJのかたち”を未来へとつなぐ



ソリューション・ラボ・ジャパン デジタル・ビジネストランスフォーメーション

DX推進スケジュール

2030年の未来へ。SLJ戦略ロードマップ

STEP 1

準備

2026年～2027年

着手・実践

2028年～2030年

STEP 2

NEXTステップ

2031年～



DX準備段階

DX認定取得や社内研修を通じ、DX推進の基盤を構築する

現状分析とIT基盤整備

間接的利益貢献の準備段階

新ビジネスモデルへの着手

現行ビジネスにDX(AI)活用を組み合わせ、収益向上を図る

顧客への価値創造準備

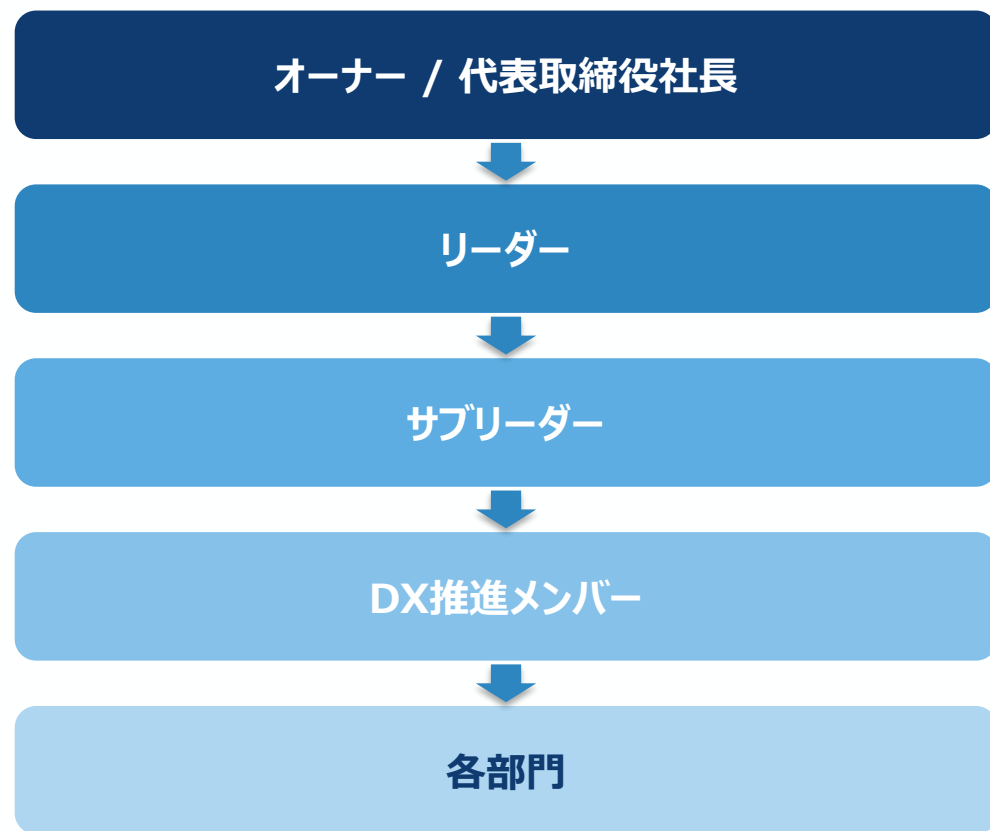
DX(AI)を前提としたビジネスモデルへの移行を準備する

新サービスの展開

SLJ-DBXサービスモデルを確立し、直接的な利益貢献を実現する

準備期間（DX推進準備室） 体制図

2026年4月に代表取締役社長をトップとしたDX準備室体制を発足し、迅速な課題解決を図る体制を整えています。



1.DX人材の育成

2.DX認定（DX-Ready準備）

3.DXに対応した組織風土の変革

準備期間(DX推進準備室) 目標

01

DX人材の育成

全社研修を通じてデジタル変革に対する意識（DXマインド）を醸成し、組織全体で変革に取り組む土壌を整えます。

また、特定のテーマに基づいた「分科会」を運営し、社員同士が知見を共有しながら実践的な課題解決に取り組む体制を構築します。



02

DX認定（DX-Ready準備）

経済産業省が推進する「DX認定（DX-Ready）」の取得を目指し、経営層や各部門のリーダー層（SL）を交えた集中的な議論を実施しています。

企業としての明確なビジョンを策定・共有することで、一貫性のある推進体制を確立します。



03

DXに対応した組織風土の変革

データの適切な管理と活用を両立するための「データガバナンス」の整備を推進しています。

また、基礎から応用まで段階的な人材育成プログラムを展開することで、誰もが日常的にAIを使いこなし、自律的に業務改善を続ける組織文化の醸成を図ります。



準備期間(DX推進準備室) 戦略

	項目	計画	達成の指標
1	DX人材の育成	オンライン学習プラットフォーム「Schoo for Business」を活用し、DXに関する標準的な知識・技術を習得した人材を育成します。独自の認定基準において、一定水準（スコア3.6以上）を満たすリテラシーを備えた層の厚みを増していきます。	2027年3月末までに、 累計100名の育成を目指します
2	DX認定 (DX-Ready準備)	全社員が必要な技術情報にアクセスし、自らも情報を発信・共有できる「ナレッジシェア基盤」を整備します。 情報の形骸化を防ぎ、活発な情報交換を促すため、積極的に貢献した社員への表彰制度の導入も検討し、自律的な学習組織を構築します。	SharePoint等を活用した、社内 ポータルサイトの新規開設
3	DXに対応した組織風土の変革	業務へのAI活用を加速させるため、専門部署による実践的な「ハンズオン形式」の講義を月1回定期開催します。 講義内容はアーカイブ動画として保存し、全社員がいつでも学習できる環境を整えることで、組織全体のAI活用スキルの底上げを図ります。	社内におけるAI活用事例 5件の創出

DX推進のための環境整備

データ駆動型経営に向けたIT基盤の再構築

- 社内に散在する業務データを統合し、経営判断に不可欠な情報をリアルタイムに可視化できる体制を整備します。
- 業務の標準化や属人化の解消を推し進めることで、将来的なAI活用を見据えた強固なデジタル基盤を構築します。

DX人材の育成と組織風土の変革

- 「Schoo for Business」を活用したオンライン学習を通じ、全社員のDXマインド醸成と組織風土の変革を促します。
- 「DXスキル診断」を導入し、個々の習熟度を客観的に把握・可視化することで、着実なスキルアップを支援します。

AI活用の推進と効果検証

- 各部門における日常業務の効率化に加え、開発業務などの専門領域においてもAIの適用を開始しています。
- 実際の業務への導入を通じてその効果を適切に評価し、組織全体の生産性向上を図ります。

業務プロセスの最適化と最適なツールの選定

- 効果的なDXを実現するため、ビジネスプロセスマネジメント（BPM）の手法を用いて現在の業務フローを整理・最適化します。
- 課題の重要度や業務量に基づき優先順位を明確にした上で、最適なデジタルツールを選定・導入し、迅速な課題解決を目指します。

DX推進の現在とこれから

1. デジタル技術による業務生産性の向上

当社は現在、ITツールの導入とデータ活用による「**業務生産性の向上**」を掲げ、情報処理環境の整備に注力しています。

既にRPAやチャットボットの導入により一定の効率化を実現していますが、今後はさらにAIやデータ分析を深く取り入れ、ビジネスプロセスそのものを変革することで、経営課題の解決を加速させます。

2. データに基づく意思決定基盤の構築

より確実な経営判断と課題解決を行うため、社内ノウハウや会計データなどの蓄積・分析を繰り返す「**データ駆動型経営**」への転換を進めています。客観的なデータに基づき、課題の抽出から適切な対策の実施までを迅速に行えるよう、社内システムの高度化を推進しています。

3. 共創を支えるDX人材の育成と外部連携

AI活用やデータ分析を担う「**DX人材の育成**」のため、外部機関との共同研究や専門知識の習得に積極的に取り組んでいます。

これらの活動を通じて培った高度なITスキルとデータ活用の知見を融合させ、将来的にはお客様のビジネスに新たな価値を創出する「DXサービス」の提供と、信頼されるパートナーとしての共創を目指します。

当社では、今後もDXの推進の状況につきまして、ホームページに随時公開して参ります。